

I K U S E I

わくせいの

2011 49



社団法人 **競走馬育成協会**

CONTENTS

■巻頭言

○会長就任挨拶

武田 暁朗(社団法人 競走馬育成協会 会長理事) ①

■特 集

○1. 育成技術講習会 講演録

1) 馬の育成調教について

一馬の性格判断を行った上で悪癖等を矯正する方法(ゲート馴致時の不従順など)..... ③

2) 競走馬の取り扱いとその背景

一引き馬と展示..... ⑩

○2. 牧場就業者参入促進事業 ⑩

「牧場で働こう見学会」

「夏休み牧場で働こう体験会」

「牧場で働こうフェアin東京競馬場」

■行 事

○平成23年度 通常総会開催..... ⑱

○平成23年度 臨時総会開催..... ⑱

○平成23年度 育成等に関する懇談会 ⑳

■事 業

○平成23年度 育成技術講習会 ㉒

○平成22年度 育成技術表彰事業 ㉓

○平成23年度 海外派遣研修事業 ㉔

○平成22年度 修学奨励金交付事業..... ㉕

○平成23年度 育成技術者就業促進事業..... ㉖

■お知らせ

○東日本大震災に伴う義援金について ㉘

○地方競馬の馬主になりたい ㉘



題字 前会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

会長就任のご挨拶



会長理事
武田 暁朗

ご挨拶に先立ちまして、まずは、東日本大震災で亡くなられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の迅速な復興を心よりお祈り申し上げます。

私は、平成23年3月31日の臨時総会および理事会におきまして会長理事に選任され、この大役を務めることになりました。前任の小沢一郎会長におかれましては、昭和62年以来23年余の長期にわたって当協会を先導していただきました。その後任としては、まことに微力ではありますが、当協会のために精一杯尽くしてまいりますので皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

ご承知のとおり、大震災の後遺症である放射能汚染がわが国の将来に暗い影を落としています。本来であれば、復興の力になることが期待される日本企業は、リーマンショックから立ち直る間もなく欧州危機、円高、タイ洪水など、度重なる事態悪化に苦戦を強いられています。このように低迷する日本経済のなかで、われわれの競馬業界も有効な対策が見出せない状況にあります。

こうした中で競馬を取り巻く社会情勢はますます厳しさを増しております。JRAでは平成22年度競馬事業本体の事業損益は29億円の赤字でありました。23年度についても大震災の影響による売上の減少や復旧工事に伴う支出等もあ

り、状況は厳しいと云われています。

当協会も舵取りが難しい時代ですが、まずはその現状を把握するため、主な事業等を見せさせていただきました。以下、その概要を報告します。

育成技術表彰事業は、年々、会員の馬が占める割合が増加する傾向にあります。これは日頃の努力の賜物であり、改めまして会員の皆様に敬意を表します。しかしJRAから助成を受けている事業費は過去2年続けて削減されており、褒賞金の単価は減額を余儀なくされています。JRAの発売金が下げ止らない現状ではありますが、本事業の重要性を訴えていきたいと思っています。

近年、競走馬の生産育成牧場における若手就業者の不足が問題となっています。これは業界全体が取り組むべき問題であり、当協会が中心となりJRA、日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、日本競走馬協会と連携して「生産育成牧場就労者参入促進事業」を実施しています。牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」で広く情報を発信するとともに、7月27日には「牧場で働こうフェア」を開催しました。これらの企画に対する若者たちの反応に確かな手ごたえを感じています。

美浦と栗東で開催された育成技術講習会では、今年はメイン講師にカウボーイアップランチ代表の宮田朋典氏を招いて「馬の調教について一馬の性格判断を行った上で悪癖等を矯正す

る方法（ゲート馴致時の不従順など）—」という内容で、大変興味深いお話を聞かせていただきました（本号に特集記事あり）。そして、わが国の強い馬づくりにおいて競馬先進国である欧米と未だに大きな隔たりがあるとすれば、宮田氏の説く馬への理解に基づいた育成調教法ではないかと思いました。

馬市場の動向では、会員が深く関わる2歳トレーニングセールが好況でした。当歳や1歳に比べると低リスクであり、なによりも競馬の即戦力として期待できることが購買意欲をそその主な要因と分析されています。また、近年セレクトションセールやサマーセールでは外国からの購買者が目立つようになりました。大口の顧客に成長することが期待されている中国やシンガポールの馬業者による購買後の若馬の預託が新たな事業として発展する可能性を秘めています。今後ますます、ピンフッカーやコンサイナーとして育成業者の役割は増大すると考えられます。

公益法人制度の改革に伴い、新たに公益認定を受けるための作業を本部で進めています。わ

が国の競馬が社会の利益に大きく貢献していることは明白であります。当協会の主な目的は「競走馬の育成技術の向上を図り、もって競馬の発展に寄与する」ことでもありますから、育成事業等の公益性を訴えていきたいと考えています。

おわりに、JRAの24年度経営目標である「将来にわたる競馬事業運営の安定と経営基盤の強化」に取り組んでいくためには全ての競馬関係者、競馬サークル全員が自分自身のため、更には事業を引き継ぐ後輩のために一丸となり、十分に議論し、目標に向け着実に結果を出すことが大切であると考えています。育成に係る立場から云えば、競馬の存続・発展のためには「強い馬づくり」が不可欠であります。そのためには今まで以上に当協会の皆様の力が大切であると強く思っています。その力を支えるものは事業に携わる人々の人間力のアップと強い意志であり、育成技術の向上であると確信しています。育成協会はそんな会員の皆様を支援してまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

武田暁朗会長理事略歴

氏名 武田 暁朗（たけだ あきお）

昭和19年3月10日生

現住所 東京都府中市

略歴 昭和42年 3月 岐阜大学農学部卒業

昭和42年 4月 日本中央競馬会入会

平成 5年 9月 競走馬総合研究所栃木支所長

平成 6年 9月 美浦トレーニングセンター競走馬診療所長

平成 8年 2月 馬事部長

平成 9年 2月 人事部長

平成11年 9月 日本中央競馬会監事

平成13年 9月 日本競馬施設株式会社 代表取締役社長

平成18年 3月 財団法人競馬共助会 会長

平成23年 3月 同上 退任

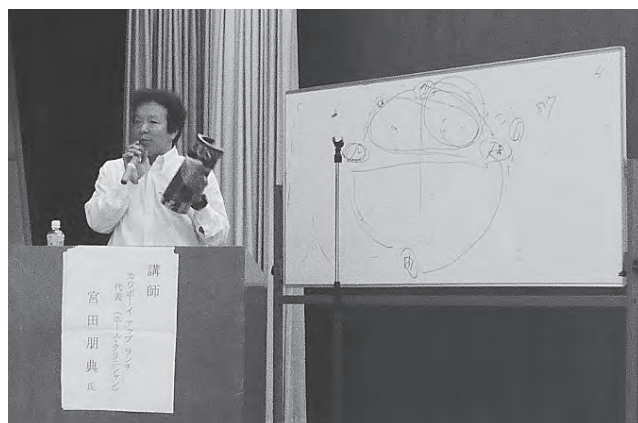
1) 馬の育成調教について

—馬の性格判断を行った上で悪癖等を矯正する方法 (ゲート馴致時の不従順など)—

カウボーイアップランチ代表 宮田 朋典



熱心に聴き入る参加者の皆さん



雑誌「エクウス」を手に講演する宮田氏

1. はじめに

私はホースクリニシャンという仕事をしています。ホースクリニシャンとは、行動学・心理学・調教などを使いながら、人が馬に感じている問題点を分析し、馬主、調教師、育成スタッフ等、様々な方たちと意見交換をしながら、馬に対する考え方の幅を広げることが主な内容です。

本日の講演会では、馬の育成調教に関わっておられる皆様に、ぜひ知っておいていただきたいことを、具体例を織り交ぜてお話したいと思います。

2. 馬の問題行動について

まず、馬の前搔きについてお話します。馬栓棒の前で馬が前搔きした場合、蹄鉄がはずれたり、蹄鉄の寿命が短くなったりします。「肢が痛くなるくらいまで前搔きをするのですがどうしたらよいのでしょうか。」とよく聞かれます。その

場合、「馬栓棒を取ったら馬は好きなところに行けて前搔きをしなくなり、これで問題解決です。」と言いたいのですが、それでは解答になりません。そこで考えていただきたいのです。馬は、競走馬や使役馬としての用途に使われることになった時点で、馬房や馬栓棒を使って管理しなければならなくなり、自然界にいる馬とは違う理論が発生することとなります。自然界では、自然の掟にしたがって淘汰されながらも生きていくわけですが、そこに人が介在することになることで馬の問題行動が生じてくるのです。これを解決するためには、人と馬の間にルールが必要になってきます。

ここで、馬の問題行動について具体的に考えてみましょう。例えば、馬栓棒を外してやり、放牧するとします。でも、放牧して怪我をさせたら困ります。では、放牧はやめましょうか。しかし、放牧しなければ疝痛になってしまうかもしれません。それでもいいのでしょうか。ストレスも溜まるでしょう。では、その発散はどうするのでしょうか。等々、考えだすとキリが

ありません。実は、これらについては正解がないのです。まず、やってみて、試してみます。その中で色々な方法を選択しているうちに、その馬に合った方法が見えてきます。また、現場の方と話しながら、広く、考え方も聞いてみます。よく相談を受ける内容ですが、ゲートに入らない、馬混みを嫌う、フォームが悪い、ある部位の筋肉をつけたい、などです。こういった問題への対応も含めてホースクリニシャンという仕事を行っています。

3. 馬の性格とその分類方法について

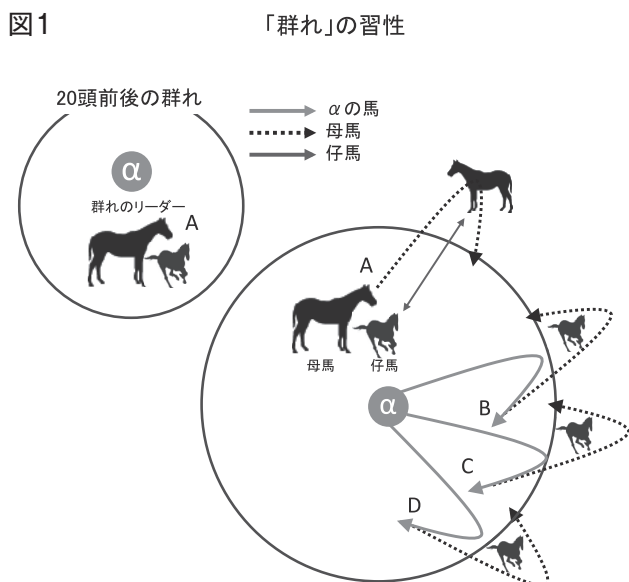
馬の問題行動を矯正するにあたっては、その調教方法が重要になってきますが、まずは、その基本となる考え方を理解していただくために、馬の性格とその分類方法についてお話します。

最初に、“馬の α (アルファ)” についてですが、 α というのは英語の A にあたり、いちばん最初という意味を持っています。つまり、馬の α とは、先頭に立つリーダーのことを指します。馬の行動学の中での例を挙げてみます (図1参照)。自然界における20頭の馬群を仮定します。この馬群が新しい場所に移動する場合、先頭に立って群れを率いるリーダーの馬、つまり、 α の馬がいます。 α の馬は、厳密には牡馬なのですが、日常行動にみられる馬の行動と性格について語る場合は、馬群の中で、中心的な役割を果たす牝馬を例に説明します。

馬群を観察していると、水場や草場の確保、安全の確保など、群れの生活管理は、経験豊富な牝馬の仕事だということがわかります。

馬群は、母馬と子馬からなる円の集合体というイメージを持ってください。馬群の牝馬のなかで、その時子馬を抱えておらず、快速で一番の力を持っているもの、すなわち相手のスピードと方向を制御したものが α となっています。この α が新しい場所に向かうと、馬群全てがついていきます。どうしてこんな団結力が生まれるのでしょうか。それは、母馬と子馬の関係から紐解くことができます。子馬は生後30分～1時間後には母馬の周りをまだしっかりしていない肢(あし)で回ります。これはDNAにプログラムされていることなのでしょう。馬群の中に、年に5～6頭ぐらいの子馬が生まれるとしたら、日々の生活の中で、母馬の目の届く円形の範囲(これを円とします)を離れる子馬が代わる代わるいることがわかります。この子馬たちは、円の外に出ることで社会性や心肺機能が鍛えられていく、つまり、社会的経験値や身体の発達が促されるとされています。母馬は、ここで子馬があまりにも暴れていると、必ず追いかけて行って円の内側に入れようとする行動をとります。興奮している子馬は背骨、脊椎、頸椎を真っ直ぐ縦方向に伸ばすようにして跳ね始めます。夢中になると子馬が本来持っている広い視野が狭くなってしまいますので、こんな時、自然界であれば肉食動物に襲われてしまいます。子馬が興奮して周りの状況に適應出来ないような感じを見せると、母馬がそばで見守るような行動をとる、さらに子馬の行動の度が過ぎると、母馬は子馬の行動をさえぎるようにします。これはダメとばかりに、円の内側に入れるようにして引き戻すのです。一旦、引き戻されてしまうと、子馬は口をグニャグニャと動かし、チューイングサイン(ガムを噛むようなしぐさ)を出しますが、これは、リラックスしているサインと読むことができます。こうして、子馬の張り詰めた緊張感が少しずつ取れていくのがわかります。

草食動物は、肢を動かし、逃げることによって安全を確保します。逃げることで幸せになるというのは草食動物の宿命あるいは本能とも言えるでしょう。一方、肉食動物は、獲得するこ



とで幸せになるというのが本能なので、ハンティングをします。ハンティングの対象となりそうな危機になると、母馬は子馬を円の内側に追い込んで囲み、囲まれた子馬は、最初こそ呼吸を荒げていますが、徐々にリラックスしてきて、プレッシャーが取り除かれて、安全が確保されるわけです。

4. 馬の調教に必要な人の役割

以上のような行動原理を利用して、人は馬に緊張と緩和を教えていくのです。つまり、我々ホースマンが調教に活かすために演じなければならないものは、この牝馬の α の役割であったり、母馬の役割であったりするわけです。

人が α や母馬のしつけを演じることで、馬の問題行動のうちの7割程度については、一時的な改善が見られると考えます。治るという表現より、いい方向付けが出来たといったほうがしっくりきます。問題行動の2割については、牝馬が牝馬同士で種付けの権利を争奪するために演じる行動やしぐさが基になっているため、その行動原理を理解して調教しなければなりません。問題行動の残り1割は、競走馬のシステムになかなか溶け込めないタイプ、つまり、人ではどうすることもできないような性格の馬が起すものです。

ここで、競走馬の例をあげて考えてみましょう。競走の世界では、内ラチ側を走る馬がやる気を無くし弱くなるようだとされたりします。競馬の世界にはラチがありますが、自然界にはありません。自然の馬群では、母馬が子馬の方向を制し、円の内側に入れて脚を奪っています。子馬は、円の内に閉ざされて脚を奪われてしまう、つまり、順位付けとしては格下となるのです。

先ほどは、牝馬の α の話をしましたが、一般には体が大きく経験値の高い(牡)馬が α になります。馬には、相手の鼻先を咬むタイプと、腰角を咬むタイプがあり、これらを行動学では、それぞれ、ドミナントスタイル(主導型)とサブミッシングスタイル(従属型)と表現しています。この考え方は、当該馬が鼻先に出たがるタイプなのか、逃げ馬タイプなのかを見極める大事なポイントとなります。他に、咬癖やチェー

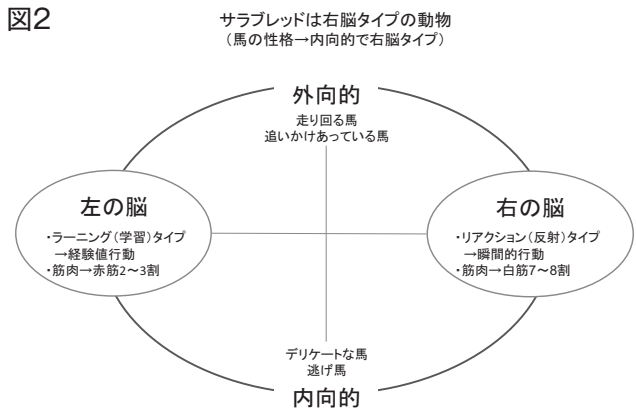
ンを咬むことが多い、口の周りがうるさいタイプは、ドミナントスタイルに分類されます。後蹴りが多く後ろばかり見ているタイプは、サブミッシングスタイルに分類され、逃げ馬になりやすいとされます。

自然界の中では、内側に追い込まれた方が格下ということになります。テレビなどでシマウマ同士が戦っているシーンを見ると、相手の腰角を咬んだり、相手を倒したりしており、追い込まれたほうがすごすごと逃げていくことがあります、それをイメージして頂くとよいと思います。その闘争は、 α (主導権)を取り合っているシーンなのです。我々、ホースマンはこの α を演じなければならないということです。

5. 馬の右脳と左脳について

次に、私がホースクリニシャンとして大切に行っているチャート(指針)についてお話します。例えば、自然界において、外向的で、放牧地で鼻先を取りあって大きく走り回り、また、追いかけてあるタイプの馬たちがいます。一方、内向的で、ベストフレンドの位置でグルーミング(戯れ)をし、争いを好まないタイプの馬がいます。これらのタイプを理解していただくために、馬の右脳と左脳に関しての説明をします(図2参照)。図を見ていただくと、右脳はリアクション(反射)ブレイン、左脳はラーニング(学習)ブレインと呼ばれています。サラブレッドの筋肉を見てみると、約7~8割の白筋と約2~3割の赤筋に分類されます。白筋は、リアクション(反射)タイプのすばやい動きを担っており、赤筋は遅筋とも呼

図2



ばれ持久力を要する動きを担っています。サラブレッドを含め、馬族が今まで生き残ってきた背景には、物音を聞いただけで確認もしないで逃げるといったリアクション動作が重要な役割を果たしてきたと考えられます。そもそも、サラブレッドは、右脳タイプの動物であると言えるでしょう。

馬の性格と行動ですが、内向的で、リアクションが多く、また、おとなしい様に見えて突然反抗してきたりすることがあります。我々の仕事は、元来もっている性格を、向かわせたい方に方向付けすることであると考えています。

馬の行動学的特性について、もう少し例をあげましょう。馬の場合は、危険が生じたら退避行動をとりますが、よくある行動が横飛びです。馬の視力は、ピントを合わせるのに1～2秒もかかります。急に変化するものを両眼で見ようとしても片眼はピントがぼやけています。馬の脳は、あえてぼやけた視野で情報を対処するようにできているのですが、怖いと思った時には、横飛びすることで距離を作り、早くピントを合わせる動作を取ることになります。

これらの馬の行動特性を踏まえて、パドックにおける馬のイコールコンデンション（条件が公平であるということ）について分析しましょう。馬を初めてパドックに連れていくとしましょう。担当者が引き馬をするわけですが、馬の行動特性を熟知している担当者はラチに沿うようにして引き馬をすることでしょう。

ここで α （引き馬する人）の役割が重要になってきます。例えば、軍隊式に訓練されている馬は整列して真っ直ぐ歩くよう訓練され、また、人に制御されています。パドックで馬を引くときには、リード（手綱）一本で馬を制御するようにします。馬のコンサイニングの場合には、人が α である、人が馬をリードするといった意識を常に持つようにします。人が馬の頸の制御をほとんどしなくても馬自らが外ラチを綺麗に歩ける、そこまでいけば、初めてピンとした歩きをお客さんに見せることができます。そうやって初めてイコールポジション（真っ直ぐ歩くこと）がとれたと言えるでしょう。

引き馬の際、チフニー（制止を目的とするハートバミ）を使って、ガチャガチャ振ってみたり、片側に引いてみたりして、とりあえず、その場

は真っ直ぐ歩かせることができたとしましょう。しかし、ある程度になってくると、次の段階、つまり、馬自らが理解して動くといった馬の自立心を作っていかなければなりません。イコールポジションがとれる馬、つまり、真っ直ぐ歩ける馬が精神的に強いと言えるのです。パドックでも同じであり、真っ直ぐ歩いて横飛びしない馬は、大変美しいものです。このような点を競馬というシーンにおいても馬自身が楽しめるように作っていくことが理想です。ただ競馬で使えればいい、突っ張って歩いてかまわないというのではないと考えます。私は馬を仕上げるまでに、タイミングを捉えて、いくつも欠点を少しずつ繰り返し矯正していくようにしています。

脳の話に戻りますが、右脳はリアクション（反射）、左脳はラーニング（学習）を担っています。調教中、馬が失敗しても許しあげてください。あせらず、何度も繰り返して教えていくことが大切です。リアクションとラーニングを使いわけながら、馬のボディーランゲージ（身体言語：表情、しぐさ、行動、態度などで意思表示すること）を読んでください。馬術競技においてですが、馬が頭頸部を高くしているときは戦闘体勢にあるということですから、視野のピントを合わせるために横飛びをすることがあります。一方、馬が草を食べているときは、頭を下げていますから、いくら驚いてもそんなに横飛びはできません。このように、馬の目線や視野の状態で、馬が出すボディーランゲージが違ってくるのです。

6. 馬の性格判断を行った上で悪癖等を矯正する方法

ーゲート馴致時の不従順などー

〔講演会では、実際に馴致しているシーンをDVDを使って説明〕

リアクション（反射）タイプの馬のゲート馴致についてお話します。この馬は、臀部や頸部に触られるのを嫌います。右の臀部にシャイ（羞恥という意味で、ここでは接触を嫌う部位）という部分があり、よく見ると、局部に緊張があります。頸部にもシャイがあります。後天的な

出来事により、触られることが嫌になったタイプの馬です。原因ですが、馬が前に出ないのでひどく鞭をあてられたというようなことが記憶に残っていると考えられます。このような馬は、なかなかゲートに入ろうとしません。右側部分に触られることが極度に嫌なためです。

この馬には、ホルターを付け、そこに長いロープを1本つなぎ、それを私が持っています。私が目の前で緩めたロープを持ってゆらゆら動かしているのに遠くの外の方を見えています。



紐製ホルターに長いロープを一本繋いだ状態。馬はよそ見をしており、トレーナーに集中していない。

今、身近で起きている事に集中力が使えない馬なのです。彼方を見てそちらを優先してしまうタイプです。頭が高い位置にあり、周りを見ていて、近くで人が何かをやっている意識を払っていません。しかし、ちょっと馬の力が抜けた瞬間に、近くの人などに気が付いて、大きく驚いてしまうのです。身近なところへの集中力が無いのに、一旦気が付くと大騒ぎをするようなタイプの馬は、ゲートの角、鞭など、些細なものに対しても、一旦気になりだすと、その場でどうやっても静まらない場合が多いようです。こういったタイプには、ロープを地表近くで振って肢下に意識を向けさせることを教えるようにします。馬が彼方を見ていて集中力が外に向かっていたら、WHOA（ウォーオ）と声をかけ、人の方を見たらエサを与える、または、リリースします。今までは、小さな物音がしたら走って逃げていました。ちょっと何かに触れると後ずさりしたり、正気が無くなったりして、逃げ出していました。こういう馬に対しては、声を発

して注意を引きつけ、安心させるようにします。

まず、このように声=音で認識させます。あっちを見たら舌呼（ゼッコ）して注意を戻し、こっちを見たらエサが貰えることを教えます。初めは緊張していましたが、エサを貰い、口が動き出すと、それに伴い緊張も徐々に緩んでいきました。こういったチューイングサインは、右脳の緊張が解けたとき、もしくは、左脳で物事を考えているときに出すサインです。

ある程度馬の集中力が人の方に入ってくるができるようになったら、次のステップに進みます。ここでは、人の舌呼や言葉に、馬が反応し注意を向けたら、ロープを軽く振るようになります。馬は、ロープに対し急には視点が合わないのので、後ろに下がってピントを合わせようとします。このタイミングで馬にバックを要求するようにします。後ろ肢を一步ずらした瞬間、イコール、馬が理解したときと教えてください。馬が集中力を保っています。周りではなく人を見えています。これは、馬が人を優先して考えてくれたことになり、一瞬こちらが優位に立ったことになるのです。この一瞬の優位な時間が、少しずつ長くなってきたらゲート馴致の第二段階に移ります。今できた事が、別の指示でも覚醒できるように条件付けて教えます。最初に、馬を異なった場所につれていきます。馬は向こうの方を見えています。合図するとこっちを見てください。褒美にエサを与えます。次に、パッティングを行い、筋肉の緊張を取り除きます。緊張している部位をポンポン叩きます。



頸部をポンポンと力を入れてパッティングし、筋肉の緊張を緩めている様子。

頸部の筋肉が緊張している時はポンポンと力を入れてパッティングし、筋肉の緊張が緩んだ時は撫でるようにします。強張った筋肉を緩める時には叩いて誉める。緩んだ時にその瞬間に撫でてあげるといった使い分けをします。

馬が草を食べる仕種に近づくということは、リラックスをしてきたというサインとなります。この馬は複雑なタイプなので、まだ完全には緊張が取れていません。ここで舌呼のサインに応じるかどうか試します。馬が草を食べているような仕種を始めました。これはリラックスしているサインですから、このままで。このときに、頭の位置が低いので何かに驚き頭をあげて周囲にぶつけてしまうといった悪い経験をさせないように注意することが必要です。人にも危害が及んでしまいます。ですから、こういったように頭を下げたときですら、人は用心を怠ってはいけません。馬の出すサインを見極めながら、パッティングや撫でるなどの基本的な対処法を繰り返して接していきます。馬の集中力が散逸しても、それが人の元に帰ってくるのを確認しながら、少しずつ進歩を確認して馴致します。馬が彼方を見たいというときに、ロープで頭部を無理やり固定すると喧嘩になってしまいます。こんなときは、見たいという馬の意思を尊重してあげて、1回は可能な限り見せます。あっちを見たいと主張しているのに、それをまったく無視すると、ハミを受ける気持ちや前に行くという気持ちが無くなってしまうからです。もちろんチフニー（ハートバミ）は、なおのことです。ハミが痛いものということになると、その痛みの恐怖で、馬は何を要求されているか理解出来にくくなってしまいます。

この馬の場合、馴致を始めて二日目になると、馬の視線の方向は、外に行く割合より私の方にくる率が高くなりました。緊張して人を見つめていた馬が、目線をあちこち動かすようになってきたら、すこし緊張が和らいだということです。頸部の緊張をパッティングしながら取り除いてやります。草を食べる仕種を始めリラックスしたように見えますが、まだ不安が頸部の緊張に残っています。馬がリラックスしてきてよい方に向かえば、砂遊びをします。しかし、悪い方向に向かったときには、そこから逃げたいという欲求行動を表します。前搔きをしてい

るなら、中間地点にいて、不安な状態にあるということです。ここで前搔きを怒ってはいけません。できることなら、このサインが砂遊びの気持ちの方向に変わるようにしたいのです。なぜなら、その場所にある匂いを体につけることで馬にリラックスが生まれるわけですから。よって、前搔きを強く叱ってはいけません。

さあ、人と馬の間でこのような約束事を確認する前準備ができたなら、ここで、ゲートに向かいます。ゲート馴致の方法ですが、馬にロープを1本つなげた状態で、まずはゲートの帰り道があることをバックで教えます。ゲートに少し入った際、嫌で別の方向を見ることがあります。ここで、馬に呼びかけて覚醒するかを確認します。約束を覚えていて覚醒してくれました。ゲートに入りました。緊張のため硬くなりました。今、周囲のゲートを調べています。チェックしています。馬がチェックしている時には邪魔をしないこと。ここで引っ張ってしまうとチェックする時間を奪ってしまうことになります。

この後、ロープを振ります。この振りは何のサインか覚えている？バックすれば楽になるというサインだよ。馬は一步步肢を後ろに動かすことによってリラックスします。大体、4～6歩バックすることでリラックスに入ると言われています。ですから、ゲートに入ろうとした瞬間に馬が固まったら、馬が自発的に後退するのではなく、私（トレーナー）の指示によって後退したのだということを理解させるのです。ロープを振るという合図と後退することの接点を探していきます。



ゲート内でロープを振り、左脳を使うよう馬の意識を集中させている様子。

ロープ振りは何だったっけ、思い出して、周りを見ないで、こっちを優先して、ロープ振りの意味を左脳で考えて、という風にして一歩肢が後ろへ抜けるのを待ちます。馬の緊張が解けていく様子は、タイヤのチューブに穴が開いてシューと空気が抜けていくようなイメージと考えてください。馬が緊張していたら、いったん開放します。あせらず、母馬のような気持ちで待ちます。後ろに下がったら、楽になったね。もう一回頑張ってみようか。呼んでもいないのにゲートに入ろうとしたら、そんなに勇み足しなくてもいいよというふうに馴致していきます。このとき、過保護にならない程度に周囲を馬にチェックさせながら、ある程度、鼻向きを制御します。そうしないと、立ち上がってひっくり返ってしまうこともあるからです。とりあえず、少し鼻先を持ちながらです。そういった感じで、君には逃げ道があるよ、ゲートに入るだけでなく、後退するという逃げ道もあるよ、入ってきて、一歩前進して頑張ったら、頑張りすぎだよ、戻っていいよ、さがってもいいよと教えてあげます。ここで、ロープを振ってみて、反応があるかどうかを確かめるようにします。ロープを振るという条件付きの行動で左脳を使わせて応答を確認します。ここで、無理をしてはいけません。折角、ここまで苦勞して積み重ねてきた行程が一瞬にして崩れてしまいます。拒否反応の悪癖は簡単に作れてしまうものなので、最大限の注意が必要です。

馬のトレーニングには、コンデションニング（調整）とチューンナップ（仕上げ）の2種類があります。コンデションニングとチューンナップをいつもやっていると、馬は混乱してきてしまいます。チューンナップでは、反射的・瞬発的な動きをつかさどる右脳が関与していることを考慮しておく必要があります。ゲート練習の場合は、左脳を覚醒させる為に、馬に考えさせなければならないので、別の場所で、約束事を思い出してもらって訓練をすることになります。ロープを引いて合図します。馬は一歩前に来ます。やさしく引きますが、そのとき、この手に500倍の力が加わったらどうでしょう。馬に拒否反応が起きてしまいます。ですから、やさしく引いて、馬に逃げ道もあるよと教えながら、あせらず、当たりや間の取り方を大事にして教え

ていきます。

今回の馬は、三日間で、ゲートに入るようになりました。このようなやり方を繰り返しながら、まず、左脳を使わせるトレーニングをします。それを、ゲートではない場所で一つずつ教えて、それを組み立てていき、ゲートに入るといった最終形にしていきます。この馬は右脳タイプですから、時間をかけて教えること、こういった間の取り方が大変重要なことになるのです。

7. 最後に

ここ数年、競走馬のゲート入りの悪癖を改善し、レースに出走させてきましたが、どの馬の場合においても、完全に矯正したというよりも、よいと考えた方へ一時的に方向付けをしたといったほうが言い方としては正しいような気がします。

絶えず、細かなチェックをして積み上げていかなければ、癖とされる矯正したい部分がまた元に戻ってしまいます。

そこで必要不可欠なことは、馬の立場になって考えることであり、それができるホースマンの育成が重要であると考えます。

悪癖矯正ですが、一貫性のない調教では良好な状態を維持するのは困難な場合が多いと考えます。今まで、馬の心理学や調教理論を習得するのに何年かの歳月を費やしましたが、得ることができたのは、小さなことともいえる当然と言えば当然のことでした。人それぞれの立場や主義がある中での調教手法について、常に振り返り、見直ししながら、馬の性格・個性を見極め、馬とのつながりを保ちつつ、組み立てなければならないと今改めて再確認している次第です。

私が行っている、馬のメンタル面や行動サインなどを解析し、あせらず、正しく調教を組み立てていく方法が、もっと多くの皆さんの中で育っていくことを期待してやみません。

今までの過程を大事にし、見直していける環境であることに感謝して、そして相手や馬の立場に立って、ホースとフォースと共にあらんことを。

2) 競走馬の取り扱いとその背景

—引き馬と展示—

JRA 日高育成牧場 業務課長

石丸 睦樹

1. はじめに

近年、日本馬の海外での活躍に伴い、海外競馬の映像を見る機会が増えました。特に欧州のパドックでは、馬をきれいに手入れし、また、その馬を引く厩務員も盛装しています。また、「馬主の大切な馬を競馬ファンや馬主に対して披露」するよう、大人しく躡られた馬を1本のリード（引き綱）でキビキビと歩かせる姿が印象的です。今回は、このような欧州での「引き馬と展示の方法」に焦点を当て、欧州の実情紹介と、そこにある合理的な理論と背景を、JRA 育成牧場での実践から得られた知見をベースに説明します。

2. 欧州におけるパドックでの引き馬

(1) 一人で引く

草食動物である馬は、群れのリーダーに従う性質を持ちます。したがって、引き馬を行う際のリーダーも一人でなければなりません。欧州のパドックでは、馬の右側を人が一緒に歩くことがあります。二人引きを行うことはありま



人混みの中を歩く馬が落ち着いて歩くことができるよう、馬の右側の者がエスコートしています。(ロンシャン競馬場)

せん。右側の人の役割は、混雑する人ごみの中を歩く際、「馬のエスコート」をすることや「右側の壁」として必要に応じて手綱を保持し馬を落ち着かせることです。競馬ではアシスタントトレーナーやトラベリングヘッドラッドが、その役割を担います。



右側の壁となり、必要に応じて手綱を保持します。
(エブソム競馬場)

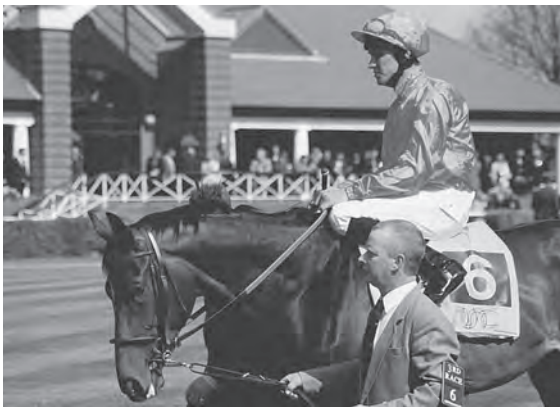
「二人引き」を行わない理由は、両側から別々の指示を出されると、馬はどちらが自分のリーダーかわからず混乱するからです。さらに、馬が暴れた際には御者の安全確保のため、両者ともにリードを離すことができず危険です。馬が人の言うことをきかない場合、二人の力で抑えこもうとしても、一馬力の馬には勝つことができません。それよりも、馬が人の指示に従うような躡を行うことの方が大切です。

また、騎乗しての「二人引き」は、騎乗者という三人目のリーダーが生じることになるので、馬は益々混乱します。この場合、引く者を一人にするとともに、騎乗者ではなくリードを保持する御者がリーダーになることで、馬は人の指示を理解しやすくなると考えられます。一方、パドックで騎乗者に主導権をもたせる場合、

リードをはずして馬の左横に立ち、軽く手綱を保持して一緒に歩くこともあります。



「二人引き」を行うと馬はどちらがリーダーかわからず混乱します。



チフニーをハミ頭絡の上から装着した状態で騎乗者を乗せて引き馬を行っています。(ニューマーケット競馬場)



リードをはずしての馬場入場。このときのリーダーは騎手になります。(ロンシャン競馬場)

(2) 生まれたばかりの子馬に対する引き馬の教育

引き馬の躰は生まれた翌日から始まります。まず、母親と子馬の間に人が位置して頸を抱えるようにして横を歩くことで、人馬の信頼関係を構築します。同時に、引き馬の際、人が馬の左側を歩くことを教えます。JRA 日高育成牧場では、生後2週間未満の子馬は関節や筋肉の力

が弱いので、転倒による事故を防止するため、最初はリードを使用しません。



最初はこのように母馬との間に位置し、子馬の首を抱えるようにして一緒に歩きます。(日高育成牧場)

リードを使用せずに馬を歩かせるためには、音声コマンドを用いながら右手で子馬の肋部を手のひらでパンと音を出して軽くたたき、馬に前進を促します。馬が必要以上に前進したら頸を抱きかかえ、スピードを調整します。そのような操作を繰り返しながら、人は子馬の肩の位置に立って、子馬が人と一緒に歩くことを教えます。



右手で軽く肋部を叩いて合図を送り馬に前進を促します。



子馬が急ぐ場合、このように頸を抱えペースを落とします。

生後2週齢以上経過した子馬にはリードを用いています。この場合、子馬を人の指示によって母馬よりも前を歩かせます。御者は、肩の位置で、子馬のスピードに合わせて歩きます。引き馬において大切なことは、引っ張って（pull）歩かせるのではなく、人が馬をリード（lead）して歩かせることです。これは子馬も成馬も同様です。



引き馬を行っているとき、子馬にとってのリーダーは母親ではなく人です。



引き馬時の人のポジション(ニューマーケット競馬場)

引き馬を行う際は、御者がリードを少し長く保持して馬の肩の位置に立ち、そこから馬に対して指示を出すとともに前進氣勢を保ちながら活発に歩かせます。また、必要以上に馬が前に出ようとする場合、馬の頭部よりも後方からハミに対して作用させ、前進を制御します。このような馬の後方から指示を出す人馬の位置関係は騎乗時と一緒です。つまり、引き馬は「日常から行うことができる騎乗者の指示に従うための躰」とも言い換えることができます。

(3) 1本のリードで引く

わが国では張り馬をする習慣がありますので、日常管理において2本リードでの引き馬が多く見られます。しかし、欧州では張り馬の習慣がなく、引き馬は通常1本のリードで行われ

ます。2本リードの使用は、片方のバックアップという考えもあります。しかし、2本では御者の保持が雑となるためか、わが国のパドックでは時々余ったリードを首にかけひく姿も見受けられます。そのような引き方は、見た目にはらしくなく映るものです。



馬の動きに対応するため、洗い場に張らずに一人が馬を保持しています。(サラトガ競馬場)



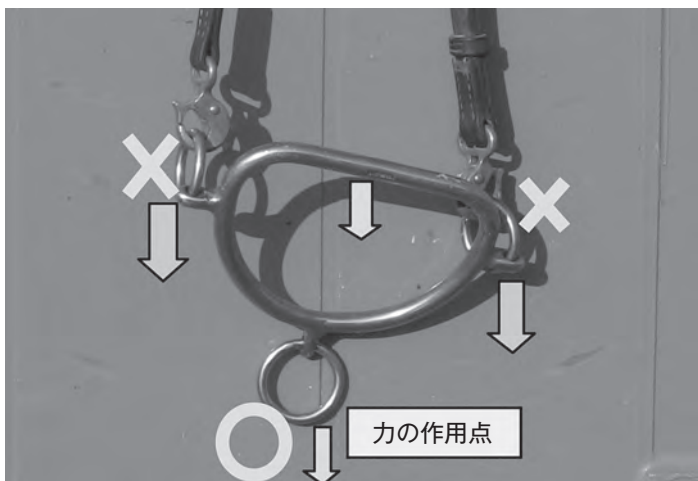
あまったリードを肩にかけた〔だらしない〕引き方

海外で1本のリードを用いる理由は、ハミを下顎に均等に作用させて馬を制御するためです。

引き馬では、ベルト式リード、2点式フックのついたリード、カップラン（Coupling）のついたリード等を使用しますが、もっともよく使用されるのがチフニー（チフニービット）です。このハミは、地上にいる御者から下顎や舌に強く作用することができるため、引き馬での制御に効果的です。競馬のパドックにおいても、ハミ頭絡の上から装着することで、引き馬を行う者が1本リードで馬を制御することができます。

チフニーの特性として以下の4点があげられます。

- ①構造上、1本のリードでの使用により制御効果がある
- ②ハミが細く棒状であるため、作用が強い（乱暴に使用してはなりません）
- ③引き馬で、後下方から操作することに適して



チフニー（口の中に入れる部分がストレートバーのタイプ）。両端のリングは項革用のもので、ここからリードをとると効力が減少します。また、右図に示すようなカーブのきついタイプは立ち上がる馬の矯正などで使用しますが、作用が強いので注意が必要です。

いる

④着脱が容易

近年、わが国のパドックでも、チフニーを装着している競走馬をよく見かけます。しかし、ハミの特性が理解されていないのか、下顎部分に1本のリードを装着するのではなく、頬革に連結するハミの横のリングに2本のリードが装着されている馬が多いようです。チフニーは、下部のリングから1本リードで使用した方が効果的に作用させることができます。

日常の引き馬や治療などの取扱いにおいても、チフニーの使用は有効です。通常、チフニーは無口頭絡の上から装着しますが、チフニーと無口の下部のリングを連結して使用することで、チフニーの直接的な作用をやわらげ、無口頭絡の鼻革部分にも作用させることが可能です。また、若馬ではチフニーの反転防止にも役立ちます。



チフニーは1本のリードで引くためのハミで、このように無口頭絡と連結して使用すると、チフニーの直接的な強い効果をやわらげます。

(4) 1本のリードで管理するための工夫（JRA 育成牧場）

わが国の洗い場や馬房では2本リードで「張り馬」を行うよう設計されています。1本のリードで馬を管理するため、JRA 育成牧場で行っている方法について示します。

①タイチェーン

馬房内では2本で張らず、タイチェーンを用いて後ろ向きに繋いでいます。馬は出入り口に向かって繋ぐと出口に向かって出ようとします。出入り口と反対の壁に向けて繋ぐことで馬を落ち着かせることができます。また、後ろ向きに繋ぐことで、馬房を出入りする際に馬栓棒をくぐる必要がなくなり、リーダーである人が目線や姿勢を保って馬に接することが可能になります。また、人の指示で後肢を左右に動かすことが出来るため、馬房の中で装鞍や厩舎作



馬をタイチェーンで繋ぐ際には、アト引きをしても安全なように、(いつでも切れる)ヒモを経由して繋がります。(宮崎育成牧場)

業を容易に行うことができます。なお、後ろ向きに繋いで馬を動かすときには、馬を動かすために押すと押し返してきますので、人の声やジェスチャーで後肢を動かすことを躱けることが大切です。

②張り綱の常設

洗い場で2本の引き綱で張るために、あらかじめ1本の引き綱を片側につけておくと、1本レーンで日常管理を行うことができます。この場合も、馬がアト引きをした際に切れるよう連結部にヒモを装着しておきます。



洗い場での張り綱常設（日高育成牧場）

(5) ファンや馬主を意識した「馬を披露する」姿勢

欧州では競馬そのものが馬主の社交の場であり、パドックに入るお客様にもドレスコードがあります。したがって、馬を引く厩舎関係者も社交の場にふさわしい身だしなみに気を配らなければなりません。また、パドックでは馬主に馬を「見ていただき」、馬主の大切な馬を競馬ファンに「披露する」姿勢が求められます。

そのためには、馬がアスリートとして最大限引き立つよう手入れに気を配り、また、ブラシによるクォーターマーク、たてがみの水ブラシや蹄油等のプレゼンテーションも普通に行われています。また、パドックでは落ち着いたキビキビとした歩きを見せることができるよう、普段からの馬の躱が大切です。

3. 競走馬の展示

(1) 馬体検査における展示

欧州の厩舎や牧場では、馬主や購買者が馬を見に来た際、きれいに手入れされているとともに、躱の行き届いた姿を見ていただいて満足していただかなければなりません。

駐立展示は、光の向きや傾斜、背景にまで配慮したうえで展示場所を選ぶことから始まります。馬を見る際には、まず左側が表になりますので、たてがみは、水に濡らしたブラシを使用して必ず右に寝かせます。そうすることで、頸のラインがきれいに見えます。また、四肢が重ならないよう、右側を狭く踏ませて立たせます。また、蹄まで検査できるような地面の安定した場所に立たせることも大切です。



チフニーを使用した1本リードによる展示
(ニューマーケット)

馬装は無口頭絡とチフニーを用いた展示が一般的ですが、そのほかにチェーンシャンクやレーシングブライドルを用いることがあります。チェーンシャンクは米国の競走馬や種牡馬の展示で多く見られますが、装着だけでプレッシャーになる強い道具ですので使用には注意が必要です。また、レーシングブライドルは競走馬であるということをアピールする効果がありますので、欧州では2歳トレーニングセールでの展示や競走馬の撮影の際に使用されています。



レーシングブライドルによる展示（シャンティ）



ハミに取り付けたカップランから1本リードを使用した展示（シャンティ）

(2) 歩様検査（インスペクション）における展示

馬主や購買者への馬体検査におけるインターナショナルスタンダードな展示を示します。まず、立ち馬で検査を行います。その後、常歩での歩様検査を求められたら、引き馬で検査者からまっすぐ10mほど離れます。その際、検査者は後肢の動きを見ている。また、回転する際は、決して左回りに回転せず、右回りに回転します。頭を高く保持し、後肢旋回の要領で小さく回すのがコツです。右回りで回転する理由は、①検査者の視界を遮らない。②回転時に後肢がふくらまない。③狭い場所では、回転時に人が馬の外側に位置することで、馬の無用な受傷を防止するためです。なお、回転後は、再び検査者が前肢の動きを見ることができるよう、まっすぐ向かいます。



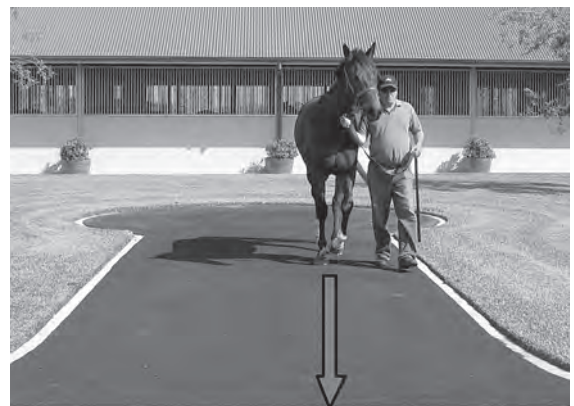
①検査者からまっすぐ10m程度離れます。



②折り返すときは右回りで回転します。



③検査者の視野を妨げることがありません。



④検査者に向かってまっすぐ戻ります。

4. 最後に

近年、わが国の生産地における1歳せり市場の下見や展示では、「1本リードによる引き馬」や「右回りの回転」等、欧州をはじめとした合理的な点で優れた技術や考え方を模範とした方法が一般的となっています。

わが国の競馬でのパドックにおいて、また、各育成牧場での展示等においても、お客様の視点からの切り口、つまり、「見ていただく」ことへの意識改革を進めることが重要であり、同時に、人馬にとって安全で合理的な取り扱いを導入することが求められているのではないのでしょうか。

「牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会」 および「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」の開催

「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」は、牧場版企業就職合同説明会と生産・育成の業種、形態を広報する場としての位置付けとなります。本年度は「牧場で働こうフェア」の開催に向けて、生産・育成の現場を見ていただくことにより保護者を含めた求職者の事前認識を持っていただくこと、また、参加いただいた方々が「牧場で働くことの楽しさ、達成感、厳しさ、忍耐力」などを口コミ媒体として広げていただきたいとの考えから、4月に関東・関西の育成牧場のご協力により「日帰り見学会」を、8月には夏休み期間中を利用した5泊6日の「夏休み牧場で働こう体験会」を北海道で開催いたしました。

1. 日帰り見学会

(関東)：千葉県シンボリ牧場

(関西)：宇治田原優駿牧場、信楽牧場 他

参加者の内訳

	中・高校生	保護者・教諭	計	申込者総数
関東	15名	10名	25名	51名
関西	20名	12名	32名	45名

① 関東地区見学会

見学会では厩舎、ウォーキングマシン、ロンギ場、走路、飼料置場、食堂施設などの施設見学、調教見学などを行なった後、牧場での日々の仕事や育成と生産の違いなどの説明を受けた後、質疑応答を行ないました。

参加者からは日々の厩舎作業や馴致、牧場の補修作業と多岐に渡る業務量に驚いていましたが、将来を牧場で就職したいと考えている者にとって、考えをまとめる良い機会であったとの意見ができました。

② 関西地区見学会

関東地区と同様に各施設見学を行い、特に調教見学を監視台から行なった際には、参加者の目付きも変わり、その意気込みが感じら

れ、また、牧場業務の説明については皆真剣に聞き入っていました。

更に、乗馬を利用した乗馬体験のご協力をいただき、参加者から育成業務に対する認識も新たにされたとの意見ができました。

③ 参加者との意見交換

保護者からは牧場の将来性やスキルアップ、競馬産業についての質問など、親として子供の就職について、「収入の安定」「雇用の保障」を考えての思いがある点、中・高生からは具体的な日々の仕事に関する質疑が行なわれ、参加者一同それぞれの思い秘めての開催でした。



厩舎作業の説明風景（関東地区）



記念撮影（関西地区）

2. 夏休み体験会

北海道浦河郡浦河町にある「浦河優駿ホースビレッジ AERU」を拠点とし5泊6日の就労体験を行いました。

初日は宿泊所でのオリエンテーションに続き、ご協力いただく5牧場の方々と夕食会を開催し、翌日からの意気込みなどを参加者一人ひとりから発表し、牧場の方々からは研修の心構えをご説明いただきました。

第2・3日の午前中の実習に加え、第3日の午後から第4日午前中（早朝作業）まで厩舎作業を体験していただくため各牧場に宿泊し、また、第2・4日の午後にはAERUでの乗馬体験、第2日夕方にはJRA日高育成牧場から講師を招いての講義、第4日夕方は軽種馬育成調教センター（BTC）での模擬馬型による制動体験、並びにBTC卒業生を交えての夕食会、第5日の午前中は牧場実習組とBTC施設見学組に分かれ、第5日午後と第6日午前中は日本軽種馬協会（JBBA）静内種馬場及びJBBA研修制度の説明を受け、社台スタリオン様のご協力により種牡馬を見学させていただくなど、参加者は馬尽くしの6日間でした。

滞在型体験会は、連日の体験作業、指導、並びに施設を提供していただく牧場の存在が大きいのですが、その他に宿泊や食事をどのようにするかも考慮しなければならない問題でありました。今回、合宿形式の施設を備え、乗馬体験も可能な「AERU」は目的に合った施設ではありますが、参加者を牧場に送迎する時間等を考えると「浦河」「様似の一部」地区に限定して、ご協力いただく牧場を探すことになる点も新たな課題となりました。

また、一部の参加者がBTC研修の応募をしたとの報告もあり、合格し入学すれば二年後には皆様と一緒に仕事をすることになるので事務局としても有意義な体験会であったと思われ、何より、ご協力いただきました牧場様への恩返しになると考えております。

研修先牧場は、(有)鎌田牧場、(有)杵臼牧場、(有)辻牧場、(有)様似堀牧場、(有)まるとみ富岡牧場、(有)ビクトリーホースランチの5牧場でした。



厩舎作業実習風景



(第2日) 馬の生産・育成に関する受講風景

3. 「牧場で働こうフェア」

本年度も7月27日に東京競馬場において、昨年度に引き続き「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」を開催いたしました。

1) 講演

本年度は、次世代牧場経営の担い手の一人である(株)白井牧場代表白井岳氏、並びに「ビクトワールピサ」号をドバイワールドカップ優勝に導いたJRA調教師角居勝彦氏による、「人生における岐路」、「仕事に対する思い」、「次世代を担う若者に対するアピール」などを語っていただきました。

また、日本軽種馬協会と軽種馬育成調教センターが実施している競走馬の生産・育成・調教技術の研修案内、日本装蹄師会の造鉄実演も併せて行ないました。



2) コミュニケーションエリア

牧場で働こうフェアのメインとなるもので、本年度も17牧場の担当者が、企業説明会と同様に牧場毎に就職説明ブースを設け、面接を行ないました。参加牧場はビクトリーホスランチ、千代田牧場、白井牧場、下河辺牧場、ノーザンファーム、社台牧場、社台コーポレーション、追分ファーム、グリーンウッドトレーニング、宇治田原優駿ステーブル、天栄ホースパーク、ダーレージャパンファーム、坂東牧場、二ノ宮マネジメントドリームファーム、三田馬事公苑、ビッグレッドファーム、吉澤ステーブルでした。



3) 研修相談コーナー

日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、日本装蹄師会が実施している研修制度に関する説明コーナーに本年度は静内農業高校、軽種馬青年部のご協力により、保護者、進路指導教諭、中・高校生向けの相談コーナーと北海道での生活説明コーナーを設けました。

また、「夏休み牧場体験会」参加申し込みの案内も実施いたしました。

4) 厩舎見学エリア

昨年同様に馬に関心がある方を対象に直接馬に触れ、厩舎体験や乗馬体験を行なえるコーナーを設けました。

5) 博物館見学

競馬の歴史や競走馬の生産から育成までの展示室等のご案内をいたしました。

(牧場就業促進事務局からのお礼)

牧場で働こうフェア、また、本年初めて行なった日帰り見学会並びに夏休み牧場で働こう体験会に、多くの若者が参加することができました。これまで「強い馬づくりは、優秀な人づくりから！」の合言葉に、牧場の方々と事務局と共同で取り組みました本事業に、これからもひとりでも多くの若者が、馬をつくり育てる仕事に関心をいただき、職業選択肢のひとつとして検討いただけるように、また、今後も世界に通用する強い馬づくりの素晴らしさを、若い世代に伝えるため、更に努力したいと思います。

最後にご協力いただきました牧場並びに関係各位の皆様のご協力に感謝しております

～ お知らせ ～

競走馬生産・育成牧場応援サイト「BOKUJOB」に求人牧場の告知広告を掲載してみませんか。まずは、Webサイト「BOKUJOB」を検索いただき、掲載されている内容をご覧ください。求人牧場の紹介記事の掲載費用は無料ですので、ご希望の方はWebサイトから直接、若しくは、記入フォーマットを印刷しFAXにて、協会までご連絡ください。

電話 03-6809-1821 FAX 03-6809-1822

※連絡先は巻末の「いくせい」発行先と同じです

通常総会開催

平成23年度通常総会は、平成23年2月25日、日本中央競馬会本部ビル7階会議室において、開催されました。

和田副会長から開会挨拶があり、次いで日本中央競馬会水野豊香理事から来賓祝辞をいただきました。

議長に高橋司氏が選任されて議事に入り、次の議案が審議・承認されました。

- 第1号議案 「平成22年度事業報告および平成22年度収支決算について」
- 第2号議案 「平成23年度事業計画及び平成23年度収支予算について」
- 第3号議案 「平成23年度会費等の額並びに徴収の方法について」
- 第4号議案 「定款の一部改正について」
- 第5号議案 「役員改選について」

なお、役員改選について「小沢会長理事」から退任表明がありました。会長選任については、後日、理事会並びに臨時総会を開催し理事増員のうえ選任することになりました。

小沢会長理事には、昭和62年11月通常総会・理事会で就任いただき23年余にわたってご指導をいただきました。

この間、競馬界はアラブ系競走の存続が問題になり、アラブ系育成牧場が主体であった当協会会員は、サラブレッドの育成で難局を乗り越え、大馬産地北海道も含む全国の育成牧場調教牧場の会員が主体となり、アラブ系馬家畜市場の運營業務から、育成調教牧場の担い手に関する業務をも含む多様な業務へと変貌を遂げてきました。

当協会は平成22年に創立50周年式典を挙行しました。このうちの四半世紀にわたって小沢会長のご指導の下、会員一同努力して現在では「世界に通用する馬づくり」を実現するほどの育成技術の向上と施設の充実をみました。ここにこの間の諸問題にご指導いただいた小沢会長に会員一同から御礼申し上げます。



50周年式典における小沢会長長式辞

第1回臨時総会開催

平成23年3月31日、日本中央競馬会本部ビル3階会議室において、「理事の補充」に関する、平成23年度第1回臨時総会が開催され、「武田暁朗」氏が理事に選任され、引き続き開催された互選理事会において満場一致により会長理事に武田暁朗氏が選任されました。

なお、新会長理事の任期は定款第14条第2項

により平成25年2月24日までとなります。

※総会にて承認されました議案内容、並びに各事業に関して、協会ホームページにて随時更新し公開しておりますので、ご覧ください。

協会ホームページ：<http://www.ttda.or.jp>

平成23年度「育成等に関する懇談会」の開催

平成12年度から「育成等に関する懇談会」が開催され、「競走馬育成に関わる諸問題」について日本中央競馬会と当協会との間で意見交換を行ってきました。

本年度の懇談会は、6月3日午前10時から、日本中央競馬会水野理事、田辺馬事部長、山野辺生産育成対策室長ほか担当者が、競走馬育成協会から武田会長以下9理事ほか担当者が出席して、日本中央競馬会六本木事務所9階第4会議室で開催されました。

当協会からの要望（別紙参照）については、次のとおり回答がありました。

1. 「当協会の今後の事業展開等に関する JRA のご意見について」は、基本的に育成協会がご自身で検討されるものであるが、協会は①育成技術表彰事業、②育成技術講習会の開催、③経営のための人材確保などについて重要な役割を果たしていると認識している。しかしながら、競馬の売上げ低迷に伴い、競馬サークル全体が効率的に事業を運営して行くことが求められている。法人改革への対応も迫られている中、協会としては単独の団体として続けていくのか、または他団体との統合も視野に入れていくのか、そして、公益認定を目指すのか、一般法人となるか検討すべき時期と考える。
2. 「育成技術表彰の維持と充実について」は、その維持が厳しい状況であることをご理解いただきたい。なお、2歳ステークス表彰については、現在6競走での表彰を実施しており、その維持を各競馬場に依頼したい。また、対象重賞競走の拡充については対象馬の実績や表彰者の臨場状況をみて検討したい。
3. 「育成技術者の確保について」は、JRA は牧場で働こうフェアへの積極的な協力・支援を行っており、牧場就業促進事務局（BOKUJOB）を協会中心に展開することについて、今後も事務局の一員として協力・支援を続けたい。
4. 「育成牧場の基盤強化対策」については、軽種馬生産育成強化資金利子補給事業並びに、畜産近代化リース事業などの有効活用をお願いしたい。



育成等に関する懇談会の様子

(別紙)

平成23年度「育成等に関する懇談会」について

平成23年6月3日
社団法人 競走馬育成協会

1. 当協会の今後の事業展開等に関する JRA のご意見について

当協会は、平成20年度総会において「公益法人制度改革における、公益社団法人の認定を受けるべく、必要な諸手続きを進める」ことを決議し、新定款の作成など準備を進めているところである。その過程のなかで、種々の論議があり、協会のあり方についても、その一環で検討しているところである。

そこで、JRA からみた、競馬サークル内で当協会が期待されている役割、果たすべき使命、今後の望ましい事業展開の方向性等について、議論の参考とするためお伺いしたい。

2. 育成技術表彰の維持と充実について

育成技術表彰事業は育成牧場の役割と育成技術水準の向上に資する事業として、会員の期待や関心のきわめて高い事業である。表彰実績をみると、一昨年に引き続き昨年も、特にファンの関心が高い新馬競走において対象件数の3/4が当協会会員の育成馬であり、表彰事業の果たしている役割は大きいと思われる。

また、JRA のご協力により競馬場における2歳ステークス競走の表彰が現在全6競走で実現しているが、今後も対象競走の拡充とともに、これまでと同様の事業の維持と充実がされるよう特段の配慮をお願いしたい。

3. 育成技術者の確保について

育成技術者の人材確保は育成業界の懸案事項となっているが、軽種馬関係5団体の連携で発足した「牧場就業促進事務局」による「競走馬の生産育成牧場への若手就業者参入促進事業」について、昨年度はフェア参加者600名余など大きな成功を収めている。今後も支援について JRA の協力をお願いしたい。

また、同事業は平成24年度までの3ヵ年計画であるが、育成技術者の人材確保は競馬産業において、今後も引き続き必要な事項と考えているので、この点についても、併せて JRA のご支援をお願いしたい。

4. 育成牧場の基盤強化対策について

近年、トレセンと育成牧場の連携が緊密になり、育成牧場にはよりレベルの高い技術が求められるようになってきた。これに伴い、育成牧場における施設・機械の整備は経営上重要な課題となっている。昨年度は、軽種馬生産育成強化資金利子補給事業の改定、畜産近代化リース事業の軽種馬育成者への対象拡大の効果があり、そのご配慮については非常に感謝している。

今後とも、育成牧場業界の基盤強化対策にご配慮をお願いしたい。

《参考》

事業名	年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度
利子補給事業		前年からの継続分以外に新たに3件、4億6千万円の利用	前年からの継続分1件のみ	前年からの継続分1件のみ
競馬関連機材等有効活用事業		募集4回で馬場柵、フォークリフト等12件の斡旋	馬場柵1件の斡旋	馬糞収集車他8件斡旋
畜産リース事業等		前年からの継続2件以外に新たに、ショベルローダー、トラクター各1台のリースが「畜産リース事業」で実現	トラクター、堆肥舎の畜産環境整備機構からの再貸付2件（継続）※1件解約	トラクター、堆肥舎の畜産環境整備機構からの再貸付3件（継続）

育成技術講習会

平成10年度より実施している育成技術講習会については、平成19年度から、JRA、BTC、当協会の3団体共催として実施しています。本年度は下記のとおり開催されました。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○東北地区

7月6日（水） 11:00～14:00

三戸郡町村会館

演題1：「市場等における馬の引き方・
展示の仕方」

講 師：JRA 馬事部生産育成対策室 主査
土屋 武氏

演題2：「軽種馬の疾病と衛生管理
－繁殖牝馬と若馬について－」

講 師：財団法人 軽種馬育成調教センター 調査役
吉原 豊彦氏

参加者数：28名



○関西地区

10月13日（木） 17:00～19:30

JRA 栗東トレーニングセンター

演題1：「馬の調教について－馬の性格判断を
行った上で悪癖等を矯正する方法
（ゲート馴致時の不従順など）－」

講 師：カウボーイアップランチ 代表
宮田 朋典氏

演題2：「競走馬の取扱とその背景
－引き馬と展示－」

講 師：JRA 日高育成牧場 業務課長
石丸 睦樹氏

参加者数：185名



○関東地区

10月19日（水） 17:00～19:30

JRA 美浦トレーニングセンター

演題1：「馬の調教について－馬の性格判断を
行った上で悪癖等を矯正する方法
（ゲート馴致時の不従順など）－」

講 師：カウボーイアップランチ 代表
宮田 朋典氏

演題2：「競走馬の取扱とその背景
－引き馬と展示－」

講 師：JRA 日高育成牧場 業務課長
石丸 睦樹氏

参加者数：201名



○九州地区

10月3日（月） 13:30～16:00

社団法人日本軽種馬協会 九州種馬所

演題1：「市場等における馬の引き方・
展示の仕方」

講 師：JRA 宮崎育成牧場 業務課係長
秋山 健太郎氏

演題2：「馬の調教について－馬の性格判断を
行った上で悪癖等を矯正する方法
（ゲート馴致時の不従順など）－」

講 師：カウボーイアップランチ 代表
宮田 朋典氏

参加者数：35名



育成技術表彰事業について

1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡大・充実が行われてきました（表1）。

2. 平成22年度の表彰事業について

- (1) 平成22年度の表彰件数は、会員の育成技術向上の成果として230件、特に新馬競走では199件と対象件数の7割強は協会会員の育成馬で、予算積算上の想定頭数を上回る事態となり、賞金の単価切り下げを余儀なくされている状況にあります。
- (2) 平成22年度の表彰対象者は、表3のとおりです。

3. 平成23年度の実施について

- (1) 平成23年度においては、すべての競走賞金額を原則として10万円で実施することが、本年2月の通常総会で決定されています（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、昨年度と同様、札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯及び京王杯の各2歳ステークスの6競走で行われました。
- (3) なお、表彰馬は、協会ホームページ <http://www.ttda.or.jp> に随時更新・掲載しておりますので、本事業の概要とともに、詳細をご覧ください。



平成23年11月12日（土） 東京競馬場
第47回 京王杯2歳ステークス（G II）

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳(4歳)以上重賞競走の3歳馬・ダート重賞交流競走(3・4歳限定)	39件
平成13年度	2歳新馬競走	147件
平成14年度		163件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和(育成期間5ヶ月以上)	125件
平成16年度	3歳新馬競走	195件
平成17年度		185件
平成18年度	3歳オープン競走	201件
平成19年度		213件
平成20年度		218件
平成21年度		225件
平成22年度		230件

表2. 平成23年度の実施について

種 目		表彰要件	賞 金	備 考
新馬競走	2歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日~12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した会員	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
	3歳新馬競走			
2歳重賞競走 (2歳重賞指定交流競走を含む。)		継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入きゅう後6週間以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した会員	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
障害重賞競走				
3歳以上の重賞競走		トレセン等入きゅう直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入きゅう後30日以内に優勝した馬を育成した会員	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
平地の3歳以上のオープン競走 (3歳限定競走を除く。)				

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の会員であること。

表3. 平成22年度 育成技術表彰対象者一覧

表彰会員名	代表者名	支部名	受賞件数					
			新馬競走	重賞競走			オープン	計
				GI-Jpn I	GII-Jpn II	GIII-Jpn III		
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	49			2		51
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	45	2	2	1		50
(株)吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	11				1	12
(有)ノースヒルズマネジメント	前田 幸治	北海道	7					7
(有)坂東牧場	坂東 正積	北海道	7			2		9
(有)ビッグレッドファーム	岡田美佐子	北海道	7			2		9
(有)下河辺牧場	下河辺俊行	北海道	6					6
(有)ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	6			1		7
(有)日高大洋牧場	小野田健治	北海道	4					4
(有)ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	4			1		5
(有)カタオカステーブル	片岡 禹雄	北海道	3					3
(有)グランデファーム	衣斐 浩	北海道	3					3
(有)千代田牧場	飯田 正剛	北海道	3					3
(有)日進牧場	谷川 利昭	北海道	3					3
アクティファーム	加藤 祐嗣	北海道	2					2
(有)内田ステーブル	内田 裕也	北海道	2					2
小国ステーブル	小国 和紀	北海道	2					2
(有)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	2					2
(有)ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	2					2
(有)高昭牧場	上山 泰憲	北海道	2					2
(有)大作ステーブル	村田 大作	北海道	2					2
田口トレーニングファーム	田口 廣	北海道	2					2
(有)武田ステーブル	武田 茂男	北海道	2					2
(有)チェスナットファーム	広瀬 亨	北海道	2					2
二風谷軽種馬共同育成センター	稲原 稔久	北海道	2				1	3
(有)浦河中央育成場	土肥 俊彦	北海道	1					1
(有)エクセルマネジメント	山本 敏晴	北海道	1					1
(有)賀張共同育成センター	楨本 一雄	北海道	1					1
(有)グリーンマイルトレーニングセンター	矢野 琢也	北海道	1					1
(有)コスモビューファーム	岡田 繁幸	北海道	1					1
(有)様似木村牧場	木村 薫	北海道	1					1
白井牧場	白井 岳	北海道	1					1
(有)谷川牧場	谷川 貴英	北海道	1					1
(有)地興牧場	小林 政幸	北海道	1					1
(株)西山牧場	西山 茂行	北海道	1					1
(有)ピクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道	1					1
(有)日高軽種馬共同育成公社	小竹 國昭	北海道	1	1				2
(有)豊洋牧場	古川 博	北海道	1					1
(有)三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	1					1
(有)メジロ牧場	北野 雄二	北海道	1					1
(有)天栄ホースパーク	半澤 信彌	東北	1					1
(有)下河辺トレーニングセンター	下河辺行信	関東	1					1
シンボリ牧場(有)	和田 孝弘	関東	1					1
(農)串良軽種馬生産育成組合	釘田 義広	九州	1					1
(有)二ノ宮マネジメント	二ノ宮初江	関東		1			1	2
(株)グリーンウッドパーク	永山 正喜	関西				1	6	7
(有)宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西				1	2	3
(有)三重ホーストレーニングセンター	伊藤 和夫	関西					2	2
(有)三田馬事公苑	岩崎 億澄	関西					1	1
計	49会員		199	4	2	11	14	230

海外派遣研修事業

(軽種馬経営高度化指導研修事業 生産育成技術者海外派遣事業)

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）の補助を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修を実施しています。

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するもので、平成10年から16年までJRAの補助により実施していた期間を通算すると、昨年まで実に75名がこの制度を利用したことになります。

本年度は、(財)軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第28期卒業生3名を5月18日から8月20日までの約3ヶ月間、アイルランド競馬学校 RACE (Racing Academy & Centre of Education) に派遣しています。また、11月には会員牧場従業員13名をアメリカでの短期研修に派遣しています。

今年度のアイルランド派遣者及び就労牧場は次のとおりです。

(財)軽種馬育成調教センター卒業生
 伊藤和哉氏 森本スティーブル
 西尾友克氏 (株)グリーンウッドパーク
 西岡篤史氏 (有)チェスナットファーム

今年度の米国派遣者及び就労牧場

安孫子豊和氏 (有)千代田牧場
 漆原雄二氏 (有)目名共同トレーニングセンター
 門井政樹氏 (有)マツカゼ松風馬事センター
 後藤太氏 〃
 佐々木道博氏 (有)ベーシカル・コーチング・スクール
 佐藤万寿雄氏 (有)佐藤牧場
 中内田和延氏 信楽牧場(株)
 松浦栄資氏 (有)エンパワーメントファーム
 宮内里佳氏 (有)宮内牧場
 矢野恭裕氏 (株)クラウン
 矢野志保氏 〃
 山本浩平氏 (有)目名共同トレーニングセンター
 渡部泰成氏 (有)二風谷ファーム



調教場に向う風景



チャーチルダウンス競馬場



アイルランドの厩舎では様々な国の方が働いています



馴致風景

なお、平成22年9月17日の改正により補助対象者及び研修内容の追加を下線部のとおり行いましたことを改めてお知らせいたします。

補助対象者

1. 協会の会員とその家族、及び会員が経営する牧場の従業員が経営する牧場の従業員であって、次の要件に該当するもの
 - ① 軽種馬生産育成に関する高度な知識・技術の修得を志向し、将来的にわが国の軽種馬育成に取り組む意欲が旺盛とみこまれる者
 - ② 所属する協会支部長の推薦がある者
 - ③ 協会と(社)日本軽種馬協会双方の会員である場合には、原則として育成を主たる業とする会員または関係者
 - ④ 会員が経営する牧場の従業員にあっては、牧場経営者の推薦があり、同牧場で1年以上就労している者又は協会会長がこれと同等と認めた者

2. 会長が指定する生産育成技術者養成機関を卒業後3ヶ月以内の者（卒業予定者も申請できるものとする。）であって、生産育成牧場への就労を予定し、又は就労しており、当該養成機関の推薦及び就労予定牧場、又は就労牧場からの申請がある者
3. 会長が特に認める者

研修期間

3ヶ月以上1年以内とする。但し、研修の目的、研修内容により、期間の短縮を認めることがある。

海外研修場所

- ① 競馬先進国の軽種馬関連人材養成機関
- ② 競馬先進国の軽種馬牧場及び競馬場厩舎
- ③ 競馬先進国のせり市場及び競馬場。並びに競走馬生産育成関連施設

事業4

修学奨励金交付事業

(軽種馬経営高度化指導研修事業 修学奨励金交付事業)

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により補助を受け、生産・育成技術者の修学奨励金交付事業を実施しています。

これは、国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成するために設置した研修施設で教育を受ける者の内、

勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、(社)日本軽種馬協会、(助)軽種馬育成調教センター、及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者に対して、審査対象としています。

平成23年1月から3月に申請を受付け、承認された件数は2件でした。

生産育成牧場就業者参入促進事業 (軽種馬経営高度化指導研修事業 就業者参入促進事業)

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）の補助を受け、就業者参入促進事業を実施しております。

平成23年度の主な活動としては以下のとおりとなります。

※詳細は「特集2」をご覧ください。

・「牧場で働こう見学会」

開催：4月2日 シンボリ牧場

4月9日 宇治田原優駿ステーブル、
信楽牧場 他

・「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」
開催：7月27日 JRA 東京競馬場

・「夏休み牧場で働こう体験会」

開催：8月21日～26日

鎌田牧場、杵臼牧場、辻牧場、
様似堀牧場、まるとみ富岡牧場、
ビクトリーホースランチ 他

・生産・育成牧場就職応援サイト「BOKUJOB」
の運営

※求人牧場掲載は無料ですので、会員の皆様
のご利用をお待ちしております

お知らせ 1

東日本大震災義援金の募集結果について (報告)

本年3月の、「東日本大震災」により被災された会員に対しての義援金につきまして、ご協力をお願いしたところ、会員等多数の方々からのご賛同を賜りましたので下記のとおり報告いたします。

なお、お寄せ頂きました義援金につきましては、被災地の東北支部、関東支部の選出理事（支部長）と協議し、6月23日に被災された東北地区の会員7名の皆様に贈呈いたしました。

記

義援金総額 31件 金 808,095円

(参考)

福島・宮城県内7会員に対して、被災程度に応じて50,000～200,000円を配分した。

お知らせ 2

地方競馬の馬主になりたい (地方競馬全国協会から)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト <http://www.keiba.go.jp/> でもご覧いただけます。

担当：地方競馬全国協会

審査部 登録課 電話 03-3583-2142

競走馬育成協会人事

武田新会長就任

(平成23年度臨時総会)

小沢一郎会長理事からの申し出により平成23年2月25日通常総会での役員改選において同氏は退任されましたので、平成23年3月31日午後2時から日本中央競馬会本部ビル3階会議室において、平成23年度臨時総会が開催されました。

臨時総会の理事選任において、武田暁朗氏が選任されました。任期は平成25年2月24日となります。

この後行なわれた理事会において、武田理事は会長に選出されました。

なお、略歴等につきましては、「巻頭言」をご覧ください。

平成23年3月1日付のJRA人事異動で、玉村総務部長が退任し、同日付で後任に北川雅一が就任いたしました。

また、同じくJRA人事異動で藤崎明美が総務部に配属されました。



北川雅一総務部長



藤崎明美さん

なお、当協会の嘱託事務員として、平成18年4月16日から5年間勤務されました、田上久江さんは平成23年5月26日付で退職されました。

大変ご苦労さまでした。

いぐせい

2011 49号

発行日 平成23年12月28日

発行 社団法人 競走馬育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4

日本中央競馬会新橋分館4階

TEL. 03(6809)1821 FAX. 03(6809)1822

E-mail kgj00522@nifty.ne.jp

編集責任者 和田隆一

制作・印刷 西谷印刷株式会社

